

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
家庭総合	2	2年・1類・A型 3類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	家庭総合(実教出版)		楽しく学べるマナーの基本

【科目の到達目標】

- ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。
- ・生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

【評価の観点と方法について】

- 1 家族・家庭に対して、関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きていくうえの知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。
- 2 学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をレポート等でまとめることができる。
- 3 自立するために必要な調理技術、裁縫技術、基礎的技術などを身につけることができる。
- 4 人が生きていくうえで必要な「生活」「マナー」にかかわる基本的知識を身につけ、理解することができる。
実習態度・作品の提出・ワークシート・定期考査等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	はじめに 家庭科を学ぶにあたって 第1編「人とかかわって生きる」 ◆自分らしい生き方と家族 ・自分を見つめる ・自立した生き方	「家庭総合」学習の意義や内容を理解する 自分自身について客観的に知り、人の一生について考えライフステージごとの特徴・課題を理解する 男女参画社会の現実を理解し、どのように青年期を生きるか考える	各領域の学習目標を説明する 自分についてワークシート等で客観的に見つめることができ、人の生涯の特徴・課題を理解する 資料を用いて青年期の生き方、社会的背景も含め理解する	情報収集、ワークシート、レポート等の提出 家族に関する法律について、基礎的知識を身につけている
	5	・共に生きる人生 ・家族に関する法律 ・高校生としてのマナー	家族・家庭の形態・機能の変化について知る 家族に関わる法律を知る 家族・近隣・学校でのマナーを理解する	家族の意義や形態・機能を理解し、時代と共に変化する家族、かかわる課題、社会的事象を考えながら理解する 家族に関する法律(親族・相続) 戦後から現在までの民法の改正の動きも知り、理解する 挨拶・服装等について、よりよいことを考え選択し、実行できる	
	6	第2編「生活をつくる」 ◆住生活をつくる ・人と住まいのかかわり	住まいの機能や気候風土のかかわり、住空間の構成を理解し、ライフステージ・スタイルに応じた住生活の計画ができるようにする	住居の歴史、日本・世界の住まいを知る 個人生活・家事労働・共同生活・整理衛生、それぞれの空間における機能を理解し、快適な住まいをどのように設計すればよいか考える	

	7	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいを計画する ・健康的な住まいと環境 ・住生活マナー 	<p>平面図の読み取りができるようにする</p> <p>快適な室内環境について学習する</p> <p>洋室・和室を理解する</p>	<p>基本的平面図表示記号を学び、平面図の読み取りができるようにする</p> <p>日照・日射・採光・照明・通風・換気・冷暖房等の知識を理解する</p> <p>立ち振る舞いを理解する</p>	<p>住空間の設計提出</p> <p>基本的な知識、住まいのメンテナンスが理解できている</p>
二 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ◆衣生活をつくる ・人と衣服のかかわり ・素材を知る ・衣服の表示と管理 	<p>衣服の起源や歴史、風土に適した衣服を学習し、ライフステージごとの衣服、社会環境とのかかわりについて学ぶ</p>	<p>衣服の様々な着用目的を考える</p> <p>衣生活の選択・購入から洗濯の方法、管理から廃棄に至るまで、衣服計画の重要性が理解できる</p>	<p>衣服の機能や材料の特徴について基礎的知識を身につけている</p>
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料で生活用品の製作 	<p>衣服素材の性能、用途に応じた選択ができ表示知識を習得する</p>	<p>刺し子の実習を通して昔の仕事着のリサイクルについて知る</p> <p>もの作りの楽しさを体験し、基礎基本的な縫製技術を習得する</p>	<p>日常着の管理についても理解できている</p>
	11	<ul style="list-style-type: none"> ◆食生活をつくる ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり 	<p>状況に合わせた服装を理解する</p>	<p>ビデオや資料で理解する</p> <p>食事の意義について考え、自分の食生活を見直し改善へとつなげることができる</p> <p>からだの中での働き、それらを多く含む食品を理解し、バランスのとれた食生活につなげることができる</p>	<p>作品提出</p>
	12		<p>世界の食文化を知る</p> <p>各自の食生活の問題点を考える</p> <p>栄養素の働きやそれぞれが多く含まれる食品について学ぶ</p> <p>食生活と健康との関わりを理解し、よりよい食生活の実践につなげる</p> <p>1日に何をどれだけ食べたなら良いかを考え、献立をたてる</p>	<p>自分の身体活動レベルにあわせた食事を考える</p> <p>献立カードを用えた献立を作成する</p>	<p>栄養素と食品の特徴について基礎的知識を身につけている</p> <p>食生活での課題を理解している</p> <p>1日の献立をたてることができる</p>
三 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の計画と調理 	<p>調理法を学び、調理技術を身につける</p>	<p>食材に応じた保存・下処理の方法や切り方、調理方法、更には調理用具の扱い方に関する基本調理実習を通して体得し、学ぶ</p>	<p>調理技術を身につけている</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・献立作成 ・調理実習 	<p>バランスのとれた家族の食生活を考える</p>		<p>家族の献立計画表を提出</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化とマナー 	<p>食事のマナーを知り、楽しく食事ができる</p>	<p>和洋中の食事マナーについて学ぶ</p>	

【その他】

- ・家庭総合は2・3年次の2年間（各2単位）で履修します。
- ・実習や演習をできる限り多く取り入れながら体験を通して学習していきます。
- ・さまざまな生活活動を想定しながら学んでいくことから、生きていくための総合力が身に付きます。
- ・連続して課題に取り組むことも多く、休むことなく実習・演習に臨んでください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
家庭基礎	2	2年・1類・B・C型 2類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	家庭基礎（実教出版）		楽しく学べるマナーの基本

【科目の到達目標】

- ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。
- ・生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

【評価の観点と方法について】

- 1 家族・家庭、子ども、高齢者、消費・経済などに対して、関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きていくうえの知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。
 - 2 学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をレポート等でまとめることができる。
 - 3 自立するために必要な調理技術、裁縫技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。
 - 4 人が生きていくうえで必要な「生活」「マナー」にかかわる基本的知識を身につけ、理解している。
- 実習態度・作品の提出・ワークシート・定期考査等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	はじめに 家庭科を学ぶにあたって 第1編「人とかかわって生きる」 ◆自分らしい生き方と家族 ・自分を見つめる ・自立した生き方 ・共に生きる人生 ・家族に関する法律 ◆子どもとかかわる ・子どもを知る ・発達のすばらしさ	「家庭基礎」学習の意義や内容を理解する 自己を客観的に見つめライフステージごとの特徴・課題を考え、男女参画社会の現実を理解し、どのように青年期を生きるか 家族・家庭の形態・機能の変化・家族に関わる法律を知る 子どもの誕生、心身の発達と特徴を知る	各領域の目標を説明し、学習方法やレポートの書き方等評価の方法を理解する 自己を見つめながら、人の生涯の特徴・課題を理解する資料を用いて青年期の生き方を社会的背景も含めて理解する 家族の意義や形態・機能、時代と共に変化する家族、かかわる課題、社会的事象を理解する 家族に関する法律を戦後から現代までの民法改正の動きを知らながら理解する 視聴覚教材や新生児模型等を用いて、生命の尊さ、親の思い、乳児の特徴や発達を理解する	情報収集、ワークシート、レポート等の提出 家族に関する法律について、基礎的知識を身につけている 子どもの特徴や発達について基礎的知識を身につけている
	5	子どもの生活 ・ふれあい体験 第2編「生活をつくる」 ◆住生活をつくる ・人と住まい ・住まいを計画する	子どもの食生活、衣生活、遊びについて理解し実習に繋げ、体験を通し子どもや親への理解を深める 住まいの機能や気候風土とのかかわり、住空間の構成を学ぶ	児童文化財の製作、離乳食の実習、衣生活用品にふれ、子どもの生活を理解する 保育園見学・実習でのふれあいで子どもの理解を深める 住居の歴史、世界の住まいを知る 個人生活・家事労働・共同生活・整理衛生、それぞれの空間の機能を理解する	児童文化財の製作と提出 意欲的に見学してレポート提出 平面図記号を正しく理解している

	6	・健康的住まい環境	ライフステージ・スタイルに応じた住生活の計画ができ、平面図の読み取りができる 和洋室の室内環境と住	快適な住まいをどのように設計すればよいか考え、基本的平面図表示記号を学び平面図の読み取りができるようにする 日照・日射・採光・照明・通風・換気・冷暖房等の知識を理解する	平面図より、平米数室構成等、読み取りができる 住空間の設計提出。 住まいのメンテナンスが理解できる
	7	・マナー① 住生活	住生活のマナーを理解		
二 学 期	9	◆衣生活をつくる ・人と衣服 ・衣服の機能と素材 ・衣服の表示と管理 ・身近な材料で生活用品の製作 ・マナー② 衣生活	衣服の起源や歴史、風土に適した衣服を知り、衣服素材の性能用途に応じた選択、表示知識を習得し、基本的な裁縫の技術を体得	衣服の様々な着用目的を考え、衣生活の選択・購入から洗濯の方法、管理から廃棄に至るまで、衣服計画の重要性を理解する 手縫いの基本を通して日常生活に役立つ工夫をし、もの作りの楽しさを体験する 冠婚葬祭等、状況に合わせた装いについてマナーの本やDVD映像から理解する	衣服の機能やの特徴について基礎的知識を身につけている 日常着の管理についても理解できている 作品提出
	10	◆高齢者とかかわる ・高齢者を理解する ・ふれあい学習 ・マナー③ 伝達	高齢社会の現状と課題、心身の特徴や生活を知り、地域での助け合い活動などを理解 手紙・気持ちの伝え方	高齢化社会の現状、将来に向けて進む高齢社会について認識し、高齢者の心身の特徴や生活を視聴覚教材やふれあい学習を通じて学び、介護保険制度も理解する	疑似体験記録提出 高齢化の現状を理解し関心を高め基本的知識が身につけている。 御礼状を提出。
	11	◆食生活をつくる ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり	世界の食文化を知る 個々の食生活の問題点を考え、栄養素の働きと含まれる食品について学び、食生活と健康との関わりを理解する	手紙のマナー・書き方を理解する。 ビデオや資料で理解し自分の食生活についての課題も考える 食事の意義について考え、食品の特徴を理解し、からだの中での働きを理解し、バランスのとれた食生活に繋げつる	食生活での課題を理解している。 食品の特徴について基礎的知識を身につけている
	12	・マナー④ 食生活			箸の使い方
三 学 期	1	・食事の計画と調理 献立作成 ・調理実習 ・マナー⑤ 和洋中の食文化	調理法を学び、調理技術を身につけバランスのとれた家族の食生活を考える。また、食事のマナーをしり、楽しく食事ができる	調理法の基本を学び、調理が出来るようになる。また、1つの献立からアレンジをしていけるようになる 調理器具の使い方・片付け方も行う 和・洋・中の食卓作法を理解する	調理技術を身につけている 家族の献立計画・調理実習・マナーレポート提出
	2	第3編「消費者として自立する」	現代の消費生活について理解し、自立した消費者を目指し環境にも配慮した消費者になる	消費者の権利と責任を認識し、賢い消費者として行動できるようにする 将来の生活を考える	消費者として必要な知識を理解し自身の経済観念を見直す 自立度チェック
	3	◆消費行動を考える ・マナー⑥ 社会人になる			

【その他】

- ・家庭基礎は2年次で履修します。
- ・実習や演習をできる限り多く取り入れながら体験を通して学習していきます。
- ・さまざまな生活活動を想定しながら学んでいくことから、生きていくための総合力が身に付きます。
- ・連続して課題に取り組むことも多く、休むことなく実習・演習に臨んでください。